



# 町長のしごとと日記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～  
【自然の営みと松前神楽に心が洗われる・・・】

早いもので町長室のカレンダーも残り三枚となり、いよいよ季節は秋へと移り変わり、否が応でも日に日に冬が近づいていることを感じさせる時期です。

山々の木々は緑を濃くしておりますが、これから赤や黄色などの鮮やかな色に染まり秋本番を迎え、われわれの目を楽しませてくれます。

八月二十四日（火）から九月五日（日）までの期間、「東京二〇二〇パラリンピック競技大会」が開催され、世界各国のアスリートが様々な障がいや乗り越えて頑張る姿に、勇気と感動をいただきました。

様々な障がいを抱えながら、弛まぬ努力と精進を重ねて大会に参加された選手の方々の姿を見ると、我々もまだまだ頑張らねばという思いがいたします。

愛媛県で、知的障がい者が集える施設「のらね

こ学かん」を運営する塩見志満子さんは、日々施設を利用される親御さんを見て、このようなことを語っております。

「こういう立派な親なら、障がいのある子も一生見てくださいだろうと思つて、神様は子どもを授ける。神様仏様の眼力に合った人たちのだろうな」と、「人は定められたところに生まれる」とも言っております。

養護教諭を経て数多くの方々と接し、様々な経験を積んだから言える重みのある言葉だと感激したことを、今でも覚えております。

八月二十九日（日）、千軒そば畑の特設会場において、千軒地域活性化実行委員会の主催による「千軒そば畑松前神楽奏上」が行われました。

昨年に引き続き、今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「千軒そばの花観賞会」は中止となっております。

当日は、千軒そば生産会や千軒町内会など関係者のみでの開催となりましたが、畑一面に咲いた白いそばの花の中で、新型コロナウイルス感染症の早期終息と五穀豊稔を祈念し、神楽初、福田舞、八乙女舞などの松前神楽が厳かに奏上されました。

千軒岳の懐に抱かれた千軒地区の大自然の中、幻想的な舞台で奏上された松前神楽はいつもと異なった雰囲気、自然の偉大さを改めて感じるとともに、我々人間も自然の一部であり、自然と共に生きる大切さを、改めて考えさせられた気がいたします。新型コロナウイルス感染症は、私たちに自然との共生のあり方を警告しているかのようです。

九月は例年、「福島大神宮例大祭」が行われ、町内を山車がにぎやかに練り歩きますが、昨年に引き続き、コロナ禍の影響により中止となっております。

ります。来年は新型コロナウイルス感染症が終息し、皆さんが町内を笑顔で楽しく練り歩く姿を念願するものであります。

九月十八日（土）に総合体育館で「敬老会」が行われました。今年もコロナ禍での開催により、町内会によっては参加を取り止めたところもあり、

参加者は約百八十名と、例年と比べて少なめでしたが、徹底した感染予防を図り、短い時間ではありましたが、参加された皆さまには楽しい時間を過ごしていただくことができましたのではと感じております。なお、この時期の開催に様々なご意見があることは承知しておりますが、人生百年時代において、日々の心の健康も大切な要素であると考

えております。改めて町民を代表し、多年にわたり社会に貢献された皆さまを敬愛し、長寿を心よりお祝いいたします。